

# Acronis



## Acronis Cloud Backup

### 該当する製品

Acronis Backup for Windows Server

Acronis Backup for Linux Server

Acronis Backup for PC

ユーザーズ ガイド

## 目次

<b>1</b>	<b>Acronis Cloud Backup の概要</b>	<b>4</b>
1.1	Acronis Cloud Backup とは	4
1.2	バックアップおよび復元の対象データ	4
1.3	クラウド ストレージにバックアップが保存される期間	4
1.4	データのセキュリティ保護方法	5
1.5	サポートされるオペレーティング システムと仮想化製品	5
1.6	バックアップと復元の FAQ	6
1.6.1	使用可能なバックアップ メソッド	6
1.6.2	使用可能な復元方法	7
1.6.3	クラウド ストレージは Acronis ブータブル メディアで使用可能ですか？	7
1.6.4	クラウド ストレージからのシステムの復元時に Acronis Universal Restore を使用できますか？	7
1.6.5	クラウド バックアップまたは復元中にネットワーク接続が失われるとどうなりますか？	7
1.6.6	空き容量がなくなった場合の動作	8
1.6.7	クリーンアップ タスクの目的	8
1.6.8	復元したコンピュータでサブスクリプションを認識する方法	8
1.7	サブスクリプションのライフサイクルの FAQ	8
1.7.1	アカウント管理 Web ページへのアクセス方法	8
1.7.2	購入したサブスクリプションはどこで見つかりますか？	9
1.7.3	サブスクリプションの開始時期	9
1.7.4	サブスクリプションの有効期限が切れるとどうなりますか？	9
1.7.5	サブスクリプションはどのように更新しますか？	9
1.7.6	「グループ」列の目的は何ですか？	11
1.7.7	コンピュータからサブスクリプションを取り消すことはできますか？	11
1.7.8	サブスクリプションをキャンセルできますか？	11
<b>2</b>	<b>どこから開始すればよいですか？</b>	<b>11</b>
<b>3</b>	<b>サブスクリプションの選択</b>	<b>11</b>
<b>4</b>	<b>ソフトウェア インストール</b>	<b>12</b>
4.1	インストールする必要があるソフトウェア	12
4.2	サポートされるオペレーティング システム	13
4.3	Acronis Backup のインストール	14
4.4	プロキシ設定の構成	15
<b>5</b>	<b>クラウド バックアップのサブスクリプションのアクティブ化</b>	<b>15</b>
5.1	Acronis Backup でのサブスクリプションの有効化	16
5.2	有効化されているサブスクリプションの再割り当て	16
<b>6</b>	<b>クラウド ストレージへのバックアップ</b>	<b>18</b>
6.1	個々のコンピュータのバックアップ	18

<b>7</b>	<b>クラウド ストレージに保存されたバックアップへのアクセス.....</b>	<b>19</b>
<b>8</b>	<b>クラウド ストレージに保存されているバックアップの操作 .....</b>	<b>19</b>
<b>9</b>	<b>クラウド ストレージからのバックアップ.....</b>	<b>19</b>
9.1	ファイルの復元 .....	19
9.2	ボリュームの復元 .....	20
9.3	大規模復元を使用した復元 .....	21
<b>10</b>	<b>Web ブラウザを使用したクラウド ストレージからのファイルの取得 .....</b>	<b>22</b>
<b>11</b>	<b>クラウド ストレージの制限.....</b>	<b>23</b>
<b>12</b>	<b>テクニカル サポート.....</b>	<b>24</b>
<b>13</b>	<b>用語集.....</b>	<b>26</b>

このドキュメントでは、**Acronis Cloud Backup** を活用することでクラウド バックアップに **Acronis Backup** を使用する方法について説明します。

**Acronis Cloud Backup** を使用すると、個々のサーバーまたはワークステーションを **Acronis Cloud Storage** にバックアップできます。

このドキュメントには、**Acronis Cloud Backup** の概要、および一般的なソフトウェアのインストールと使用のシナリオに関する詳細な手順が記載されています。これらの手順は、**Acronis Backup** の知識があまりなく、初めてクラウド バックアップを使用するというユーザーを対象にしています。**Acronis Backup** が提供する機能の詳細については、同製品のヘルプを参照してください。**F1** を押すことで、すべてのプログラム ウィンドウで状況依存ヘルプを利用できます。

## 1 Acronis Cloud Backup の概要

このセクションには、**Acronis Cloud Backup** の簡単な概要と、この製品の評価および使用中に生じる可能性がある質問への回答が記載されています。

### 1.1 Acronis Cloud Backup とは

**Acronis Cloud Backup** は、**Acronis Cloud Storage** にデータをバックアップできるようにするサービスです。このサービスを使用するには、サブスクリプションを購入して、バックアップのために予約するストレージ領域の量（ストレージ クォータ）、およびクラウド バックアップ サービスを使用できる期間を決定する必要があります。

**サブスクリプションの例:**

- **1 TB** のボリューム サブスクリプションは、物理コンピュータや仮想コンピュータ（数量は無制限）のデータを **1 年間**バックアップできるという意味です。バックアップが占有できる領域は、最大 **1 TB** です。
- **PC 用**サブスクリプションは、サーバーでない **Windows** オペレーティング システムを実行するコンピュータのデータを **1 年間**バックアップできるという意味です。ストレージ クォータは無制限です。

### 1.2 バックアップおよび復元の対象データ

任意のファイル、ボリューム、または物理コンピュータ全体を、必要な頻度でバックアップできます。多くのクラウド バックアップ ソリューションとは異なり、**Acronis Cloud Backup** ではクラウド ストレージから直接ベア メタル復元を実行できます。ディスク レベルのバックアップからも、ファイル レベルのバックアップからと同様にファイルを復元できます。

### 1.3 クラウド ストレージにバックアップが保存される期間

バックアップは、削除するかサブスクリプションの有効期限が切れるまでクラウド ストレージに保持されます。クラウド ストレージからのデータの復元は、サブスクリプションの有効期限後 **30 日間**行うことができます。

ストレージ領域を効果的に使用するために、**[次より古いバックアップは削除する]** 保持ルールを設定するオプションがあります。

## 例

ファイル サーバーに次のバックアップ戦略を使用できます。

スケジュールに従って 1 日に 2 回重要なファイルをバックアップします。保持ルール **[次より古いファイルバックアップを削除する]** を 7 日に設定します。これは、すべてのバックアップ後に 7 日より古いバックアップが確認され、自動的に削除されることを意味します。

サーバーのシステム ボリュームのバックアップを必要に応じて手動で実行します。オペレーティング システムの更新後などです。不要なバックアップを手動で削除します。

## 1.4 データのセキュリティ保護方法

バックアップは、AES (Advanced Encryption Standard) 暗号化アルゴリズムおよび設定したパスワードを使用して暗号化することができます。これによって、データが他人からアクセスされないことが保証されます。

## 1.5 サポートされるオペレーティング システムと仮想化製品

Acronis Cloud Backup は、次のオペレーティング システムおよび仮想化プラットフォームをサポートします。

### サーバー オペレーティング システム

#### Windows

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2003/2003 R2

Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter、Web の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2008

Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation、Web の各エディション

Windows MultiPoint Server 2010/2011/2012

Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション

Windows Server 2012/2012 R2: すべてのエディション

Windows Storage Server 2003/2008/2008 R2/2012/2012 R2

#### Linux

2.4.20 ~ 3.16 のカーネルおよび glibc 2.3.2 以降を搭載した Linux

次を含む Various x86 および x86\_64 Linux ディストリビューション

Red Hat Enterprise Linux 4.x、5.x、6.x、7.x

Ubuntu 9.10、10.04、10.10、11.04、11.10、12.04、12.10、13.04、13.10、14.04、14.10

Fedora 11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21

SUSE Linux Enterprise Server 10 および 11

SUSE Linux Enterprise Server 12 – Btrfs を除くファイル システムでサポート

Debian 4、5、6、7.0、7.2、7.4、7.5、7.6、7.7

CentOS 5.x、6.x、7.0

Oracle Linux 5.x、6.x、7.0: Unbreakable Enterprise Kernel と Red Hat Compatible Kernel の両方

CloudLinux 6.x

RPM パッケージ マネージャを使用していないシステム (Ubuntu システムなど) に製品をインストールする場合は、インストールの前に、ルート ユーザーとして次のコマンドを実行するなどしてこのマネージャを手動でインストールする必要があります。 **apt-get install rpm**

## ワークステーション オペレーティング システム

Windows XP Professional SP2 以降 (x86、x64)

Windows Vista: Vista Home Basic および Vista Home Premium を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows 7: Starter および Home Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

## 仮想化製品 (仮想コンピュータのホストベースのバックアップ)

VMware ESX(i) 4.0、4.1、5.0、5.1、5.5、6.0

(ホストベースのバックアップは VMware ESXi の有料ライセンスでのみ使用できます)

Windows Server 2008 (x64) (Hyper-V 使用)

Windows Server 2008 R2 (Hyper-V 使用)

Microsoft Hyper-V Server 2008/2008 R2

Windows Server 2012/2012 R2 (Hyper-V 使用)

Microsoft Hyper-V Server 2012/2012 R2

Windows Server 8、8.1 (x64) (Hyper-V 使用)

## 1.6 バックアップと復元の FAQ

このセクションでは、バックアップ プロセスと復元プロセスに関連する質問の回答を示します。

### 1.6.1 使用可能なバックアップ メソッド

複数のバックアップ スキームを使用して、完全または増分バックアップ メソッドを利用できます。バックアップ スキームに関係なく、最初にタスクを実行すると完全バックアップが作成され、それ以降のタスク実行により増分バックアップが作成されます。次のバックアップ スキームを使用できます。

- **手動による開始** (延期された開始)。手動でタスクを再実行できます。
- **シンプル** (スケジュールされた開始)。このバックアップ スキームを使用すると、保持ルールを設定して古いバックアップを自動的に削除することができます。

- **GFS (Grandfather-Father-Son)** (スケジュールされた開始)。週単位のバックアップおよび月単位のバックアップと見なされる、日単位のバックアップを指定します。日単位、週単位、および月単位のバックアップに応じて、個別の保持ルールを設定できます。
- **ハノイの塔** (スケジュールされた開始)。レベルの数を設定します。これは、一度に保存されるバックアップの数です。新しい日付に多くの復元ポイントを残し、古い日付には少ない復元ポイントを残すという方法で、余分なバックアップは削除されます。
- クラウド バックアップにのみ使用できる追加のバックアップ スキームは、**初期シード**です。このスキームを使用すると、ローカルのバックアップ先へのバックアップが、完全バックアップ メソッドを使用してすぐに開始されます。このスキームを使用するには、初期シードサービスのライセンスが必要です。

## 1.6.2 使用可能な復元方法

データを Acronis クラウド ストレージから復元するには、次の 2 つの方法があります。

- **Acronis Backup GUI** または **コマンド ライン インターフェイス**を使用した、ディスクまたはファイルの復元『19ページ』。この方法では、さまざまな **Acronis Backup** 機能を使用できます。
- **ウェブ ブラウザ**を使用した、ファイルレベルのバックアップからのファイルの取得『22ページ』この操作に必要なのは、インターネット アクセス機能を備えたコンピュータのみです。

## 1.6.3 クラウド ストレージは Acronis ブータブル メディアで使用可能ですか？

**Acronis Cloud Storage** からの復元は使用可能ですが、ストレージへのバックアップは使用できません。

## 1.6.4 クラウド ストレージからのシステムの復元時に Acronis Universal Restore を使用できますか？

はい。クラウド ストレージからシステムを復元する場合、**Acronis Universal Restore** をいつでも使用することができます。

## 1.6.5 クラウド バックアップまたは復元中にネットワーク接続が失われるとどうなりますか？

30 秒ごとにクラウド ストレージへのアクセスが試行されます。試行は、接続が再開されるか、または特定の回数の試行が行われるとすぐに、いずれか早い方の時点で停止します。デフォルトの試行回数は、バックアップのときは 300 で、復元のときは 30 です。

試行回数と試行間隔は、**[エラー処理] > [エラーが発生した場合は再試行する]** オプションで変更できます。すべてのバックアップ計画または復元タスクにこのオプションが含まれています。



## 1.6.6 空き容量がなくなった場合の動作

コンピュータのバックアップが、そのサブスクリプションによって割り当てられているストレージ領域を超えそうな場合には、アラートに関する電子メール通知が届きます。さらに、このアラートは、アカウント管理 **Web** ページのコンピュータの近くにも表示されます。これは、将来のバックアップのために領域の一部を解放する必要があるということです。または、ストレージ クォータを増やすことを考えてもよいでしょう。あるいは、将来オーバーフローが発生しないように、保持ルール『4ページ』を設定または編集することもできます。使用中の領域が制限値に達すると、バックアップは停止します。

## 1.6.7 クリーンアップ タスクの目的

保持ルールが設定されているバックアップ計画には、バックアップ タスクの他にクリーンアップ タスクが含まれています。クリーンアップ タスクは、有効期限より長く存続するバックアップの有無を、バックアップ計画によって作成されたアーカイブで確認します。そのようなバックアップが見つかった場合、タスクはクラウド ストレージでそのバックアップを削除します。そのような削除はクラウド ストレージ側で実行されるため、コンピュータの CPU リソースは使用されません。

クリーンアップ タスクは、バックアップが失敗した場合でも、すべてのクラウド バックアップ後に実行されます。ただし、保持されるのは常に、最後に正常に終了したバックアップです。保持ルールの詳細については、「クラウド ストレージにバックアップが保存される期間『4ページ』」を参照してください。

通常、クリーンアップ タスクを手動で開始して停止する必要はありません。ただし、[バックアップの計画およびタスク] ビューで行うことは可能です。

## 1.6.8 復元したコンピュータでサブスクリプションを認識する方法

バックアップから物理コンピュータを復元すると、新しいコンピュータの ID が作成されます。そのため、復元前に使用していたサブスクリプションを使用してそのコンピュータをバックアップすることができません。

引き続き同じサブスクリプションを使用してコンピュータをバックアップするには、そのサブスクリプションをコンピュータに再割り当て『16ページ』します。再割り当てすると、次のコンピュータのバックアップが増分バックアップになる場合があります。新しいサブスクリプションをコンピュータに割り当てた場合は、必ず新しい完全バックアップが作成されます。

## 1.7 サブスクリプションのライフサイクルの FAQ

このセクションでは、サブスクリプションのライフサイクルと、アカウント管理 **Web** ページで実行できるサブスクリプションの操作について説明します。

### 1.7.1 アカウント管理 **Web** ページへのアクセス方法

<http://www.acronis.co.jp/my/cloud-backup/corporate> にアクセスして、アカウントにログインします（登録していない場合はアカウントを作成します）。



Acronis Backup からこの Web ページにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. **【アクション】** メニューの **【今すぐバックアップ】** または **【バックアップ計画の作成】** をクリックします。
2. **【ロケーション】** をクリックして、**【サブスクリプションの購入または管理】** をクリックします。
3. アカウントにログインします（登録していない場合はアカウントを作成します）。

## 1.7.2 購入したサブスクリプションはどこで見つかりますか？

サブスクリプションを Acronis パートナーから購入した場合、各サブスクリプションの登録コードを確認する電子メールを受信したはずです。アカウント管理 Web ページにアクセスして、**【新しい登録コードの入力】** をクリックして、登録コードを入力します。サブスクリプションが、**【サブスクリプションの管理】** タブの利用可能なサブスクリプションの一覧に表示されます。

サブスクリプションを登録する別の方法は、Windows での Acronis Backup のローカル インストール中に登録コードを入力する方法です。

Acronis Web サイトから購入したサブスクリプションは、このタブですぐに利用可能になります。

## 1.7.3 サブスクリプションの開始時期

**ボリューム** サブスクリプションのサブスクリプション期間は、購入時に開始されます。

**コンピュータ** サブスクリプションのサブスクリプション期間は、サブスクリプションがコンピュータで有効化されるとすぐに開始されます。

## 1.7.4 サブスクリプションの有効期限が切れるとどうなりますか？

サブスクリプションの有効期限の 1 カ月前に、アラートとともに電子メール通知を受信します。さらに、このアラートは、アカウント管理 Web ページのコンピュータの近くにも表示されます。これは、コンピュータのバックアップを続行するには、サブスクリプションを更新『9ページ』する必要があることを意味します。

サブスクリプションを更新しない場合、有効期限から 5 日間クラウド ストレージにデータをバックアップできます。有効期限から 30 日間はクラウド ストレージからデータを復元できます。

## 1.7.5 サブスクリプションはどのように更新しますか？

別のサブスクリプションを購入して、同じコンピュータの次のサブスクリプションとして指定します。新しいサブスクリプションは、現在のサブスクリプションの有効期限が切れるとすぐに有効化されます。

有効期限が切れたサブスクリプションは、有効期限後 5 日以内に更新できます。その場合、新しいサブスクリプションはすぐに有効化されます。

### 1.7.5.1 単一のサブスクリプションの更新

有効化されているサブスクリプションを、同じかそれ以上のストレージ クォータを持つサブスクリプションに更新できます。

**ボリューム** サブスクリプションを更新するには、**ボリューム** サブスクリプションが必要です。**コンピュータ** サブスクリプションを更新するには、同じ種類の**コンピュータ** サブスクリプションまたは**ボリューム** サブスクリプションが必要です。

仮想コンピュータのサブスクリプション（現在は非推奨）は、**サーバー** サブスクリプションまたは**ボリューム** サブスクリプションに更新できます。

#### ボリューム サブスクリプション

**ボリューム** サブスクリプションを更新するには、アカウント管理 **Web** ページにアクセスして、**ボリューム** サブスクリプションの横にある **[更新]** をクリックして、画面の指示に従います。

新しい有効期限は **[有効期限]** 列に表示されます。

- 新しいサブスクリプションと古いサブスクリプションのストレージ クォータが同じ場合、サブスクリプション期間は合計されます。
- 新しいサブスクリプションのストレージ クォータの方が大きい場合、結果のサブスクリプション期間は再計算されます。

#### コンピュータ サブスクリプション

**コンピュータ** サブスクリプションを更新するには、アカウント管理 **Web** ページにアクセスして、サブスクリプションを更新するコンピュータを見つけてそのコンピュータの横にある **[更新]** をクリックして、画面の指示に従います。

新しいサブスクリプションが、そのコンピュータの **[次のサブスクリプション]** 列に表示されます。

### 1.7.5.2 有効化されている多数のサブスクリプションを一度に更新する

この操作は、適切な数の新しいサブスクリプションが、現在使用されているサブスクリプションと同じ場合に行うことができます。

新しいサブスクリプションが、アカウント管理 **Web** ページで利用可能であることを確認してください。その後、**[すべて更新]** をクリックします。確認ウィンドウに、更新されるサブスクリプションの概要が示されます。一部のコンピュータで同一のサブスクリプションが見つからない場合、自動更新をキャンセルして、各サブスクリプションを個別に更新することもできます。

### 1.7.5.3 「自動更新」とはどのような意味ですか？

自動更新は、現在のサブスクリプションの有効期限が切れたときに、利用可能なサブスクリプションから次のサブスクリプションが自動的に選択されることを意味します。次のサブスクリプションは、現在のサブスクリプションと同じである必要があります。

同一のサブスクリプションが見つからない場合、自動更新は行われず、バックアップは失敗する可能性があります。サブスクリプションは自動的に購入されません。自動更新の時点

で利用可能なサブスクリプションのみを使用できます。サブスクリプションごとに自動更新を選択するか、有効化されているすべてのサブスクリプションの一括自動更新を設定することができます。

### 1.7.6 「グループ」列の目的は何ですか？

**[すべて更新]** や **[すべて自動更新]** などのアクションを、選択したサブスクリプションに適用できます。グループ化する各サブスクリプションの近くで、目的のグループ名（たとえば、SalesDept）を指定します。**[グループ]** 列ヘッダーをクリックしてサブスクリプションを並べ替えてから、目的のアクションをグループに適用します。

### 1.7.7 コンピュータからサブスクリプションを取り消すことはできますか？

利用可能なサブスクリプションの一覧に有効化されているサブスクリプションを返却することはできませんが、Acronis Backup GUI で別のコンピュータに再割り当て『16ページ』することはできます。

### 1.7.8 サブスクリプションをキャンセルできますか？

サブスクリプションの有効期限が切れるまで待ってください。クラウド バックアップ サブスクリプションの返金はできません。

## 2 どこから開始すればよいですか？

<http://www.acronis.co.jp/my/cloud-backup/corporate> にアクセスして、アカウントにログインします（登録していない場合はアカウントを作成します）。これが **アカウント管理 Web** ページです。ここで、試用サブスクリプションを取得して、Acronis パートナーを見つけるか、サブスクリプションをオンラインで購入できます。新たに取得したサブスクリプションは、**[サブスクリプションの管理]** タブに利用可能なサブスクリプションとして表示されます。

Acronis パートナーからサブスクリプションを購入した場合、**[新しい登録コードの入力]** リンクを使用して手動で登録してください。登録コードは、購入の確認電子メールに記載されています。

次に、Acronis ソフトウェア『12ページ』（まだインストールしていない場合）をインストールし、Acronis Cloud Storage へのバックアップを開始します。

## 3 サブスクリプションの選択

### ボリューム サブスクリプション

ボリューム サブスクリプションを使用すると、サポートされるオペレーティング システム『5ページ』を実行するコンピュータ（数量は無制限）をバックアップできます。バックアップされたすべてのコンピュータが共通のストレージ クォータを共有します。サブスクリプション期間は、購入時に開始されます。

## コンピュータ サブスクリプション

コンピュータ サブスクリプションを使用すると、単一のコンピュータをバックアップできます。ストレージ クォータは、このコンピュータのみに適用されます。サブスクリプション期間は、サブスクリプションをコンピュータで有効化すると開始されます。

コンピュータで実行されているオペレーティング システムに基づいて、**サーバー**用サブスクリプションまたは **PC** 用サブスクリプションを選択します。コンピュータがサーバーであるかワークステーションであるかわからない場合は、サポートされるオペレーティング システム 『5ページ』 の一覧を参照してください。

バックアップがサブスクリプションのストレージ クォータを超える可能性がある場合は、ワークステーションでサーバー サブスクリプションを使用することができます。この反対に使用することはできません。PC 用サブスクリプションを使用してサーバーをバックアップすることはできません。

## 試用サブスクリプション

アカウントごとに 1 つの無料サブスクリプションを取得できます。試用サブスクリプションを使用すると、単一のコンピュータをバックアップできます。サブスクリプション期間は 1 カ月に制限されます。

試用サブスクリプションの取得は、有料サブスクリプションを購入するまで可能です。試用サブスクリプションは、有料サブスクリプションと併用することができます。試用サブスクリプションと有料サブスクリプションに同じ有効期限ルールが適用されます。

試用サブスクリプションの有効期限切れ後にサービスを引き続き使用するには、サブスクリプションを購入し、有料サブスクリプションを指定して試用サブスクリプションを更新します。バックアップしたデータは保持されます。コンピュータの定期的なバックアップは中断されずに続行されます。サービスは新しい完全バックアップを実行する必要はありません。

試用サブスクリプションを取得するには、次のいずれかの手順を実行します。

- アカウント管理 Web ページで、クラウド バックアップの試用リンクをクリックしてから、必要なサブスクリプション タイプを選択します。
- バックアップが必要なコンピュータに Acronis Backup をインストール 『14ページ』 し、製品を起動して **[今すぐバックアップ]** または **[バックアップ計画の作成]** をクリックし、**[ロケーション]**、**[サブスクリプションを試用する]** の順にクリックします。アカウントにログインします（まだ登録していない場合はアカウントを作成します）。試用サブスクリプションが自動的に作成され、コンピュータに割り当てられます。

## 4 ソフトウェア インストール

このセクションには、必要なソフトウェアおよび詳細なインストール手順の選び方についての情報が含まれています。

### 4.1 インストールする必要があるソフトウェア

Acronis Backup または Acronis Backup Advanced をダウンロードしてインストールします。クラウド ストレージのみにバックアップする場合は、プロダクト キーは不要です。

Acronis Backup を使用すると、バックアップ対象の各コンピュータでバックアップをローカルに設定および監視できます。Acronis Backup Advanced を使用すると、リモート管理および集中管理を実行できます。ローカル管理も使用可能です。

次のセクションでは、Acronis Backup について説明します。

## 4.2 サポートされるオペレーティング システム

Acronis Backup は、以下のいずれかのオペレーティング システムにインストールできます。

### サーバー オペレーティング システム

#### Windows

Windows Server 2003/2003 R2: Standard、Enterprise の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2003/2003 R2

Windows Server 2008: Standard、Enterprise、Datacenter、Web の各エディション (x86、x64)

Windows Small Business Server 2008

Windows Server 2008 R2: Standard、Enterprise、Datacenter、Foundation、Web の各エディション

Windows MultiPoint Server 2010/2011/2012

Windows Small Business Server 2011: すべてのエディション

Windows Server 2012/2012 R2: すべてのエディション

Windows Storage Server 2003/2008/2008 R2/2012/2012 R2

#### Linux

2.4.20 ~ 3.16 のカーネルおよび glibc 2.3.2 以降を搭載した Linux

次を含む Various x86 および x86\_64 Linux ディストリビューション

Red Hat Enterprise Linux 4.x、5.x、6.x、7.x

Ubuntu 9.10、10.04、10.10、11.04、11.10、12.04、12.10、13.04、13.10、14.04、14.10

Fedora 11、12、13、14、15、16、17、18、19、20、21

SUSE Linux Enterprise Server 10 および 11

SUSE Linux Enterprise Server 12 – Btrfs を除くファイル システムでサポート

Debian 4、5、6、7.0、7.2、7.4、7.5、7.6、7.7

CentOS 5.x、6.x、7.0

Oracle Linux 5.x、6.x、7.0: Unbreakable Enterprise Kernel と Red Hat Compatible Kernel の両方

CloudLinux 6.x

RPM パッケージ マネージャを使用していないシステム (Ubuntu システムなど) に製品をインストールする場合は、インストールの前に、ルート ユーザーとして次のコマンドを実行するなどしてこのマネージャを手動でインストールする必要があります。 **apt-get install rpm**

### ワークステーション オペレーティング システム

Windows XP Professional SP2 以降 (x86、x64)

Windows Vista: すべてのエディション (x86、x64)

Windows 7: すべてのエディション (x86、x64)

Windows 8/8.1: Windows RT Edition を除くすべてのエディション (x86、x64)

## 4.3 Acronis Backup のインストール

Acronis Backup がない場合は、製品のプロダクト キーなしでインストールします。クラウドストレージにのみバックアップすることができます。

デフォルト設定を使用する場合の基本的なインストールの詳細な手順は、次のとおりです。詳細なインストール オプションが必要な場合は、**Acronis Backup** のインストール ドキュメントを参照してください。たとえば、製品は、対話型モードの他に、無人モードでもインストールすることができます。

### セットアップ プログラムのダウンロード

Acronis Backup セットアップ プログラムを

<http://www.acronis.co.jp/my/cloud-backup/corporate> からダウンロードします。Linux で製品をインストールするには、x86 または x86\_64 プラットフォーム用のインストール ファイルをダウンロードします。

### 製品のインストール

バックアップ対象の各コンピュータで以下の手順を実行します。

#### Windows でのインストール

1. 管理者としてログオンし、セットアップ プログラムを開始します。
2. **[Acronis Backup のインストール]** をクリックします。
3. 使用許諾契約に同意して、**[次へ]** をクリックします。
4. **[ライセンスまたはサブスクリプションを購入しました]** をオンにしてから、**[次へ]** をクリックします。
5. 既にサブスクリプションを登録した場合またはコンピュータがインターネットに接続していない場合は、この手順を省略します。  
それ以外の場合は、以下の手順を実行します。
  - a. サブスクリプション登録コードを入力するか、テキスト ファイルからインポートします。
  - b. Acronis アカウント資格情報を入力します。Acronis アカウントがない場合は、**[アカウントの作成]** をクリックして、アカウント作成フォームを入力します。
6. 前の手順を省略した場合は、**[...のバックアップのライセンス]**で **[クラウド バックアップのみ: ライセンスは不要です]** を選択します。
7. **[インストール先:]** はデフォルトの設定のままにします。続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。
8. Acronis サービスの資格情報の入力を求められたら、デフォルト設定 **[新しいアカウントを作成する]** のままにします。続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。  
**詳細:** データをバックアップして復元するサービスを実行するには、このアカウントが必要です。
9. コンピュータを **Acronis カスタマ エクスペリエンス プログラム (CEP)** に参加させるかどうかを選択します。続行するには、**[次へ]** をクリックしてください。



10. **[インストール]** をクリックして、インストールを続行します。
11. インストールが問題なく終了したら、**[完了]** をクリックしてウィザード ウィンドウを閉じます。

## Linux でのインストール

32 ビット コンピュータには **AcronisBackupL.i686** インストール ファイル、64 ビット コンピュータには **AcronisBackupL64.x86\_64** インストール ファイルを使用します。ルート ユーザーとしてファイルを実行し、画面の指示に従います。

## ブータブル メディアの作成

ブータブル メディアを使用して、破損したオペレーティング システムまたはコンピュータ全体をディスクまたはボリューム バックアップから復元できます。適宜この時点でブータブル メディアを作成することを強くお勧めします。ファイル レベルのバックアップのみを行う場合、ブータブル メディアを作成する必要はありません。

1. Acronis Backup を起動します。
2. [ようこそ] 画面で、**[ツール]** から **[ブータブル メディアの作成]** をクリックします。Acronis ブータブル メディア ビルダ ウィザードが表示されます。
3. 画面の指示に従います。

## 4.4 プロキシ設定の構成

プロキシ サーバー経由でインターネットに接続しているコンピュータの場合は、そのプロキシ サーバーを使用するように Acronis Backup を構成します。

1. Acronis Backup を起動します。
2. **[オプション]** メニューで **[コンピュータ オプション]** をクリックします。
3. **[Cloud Backup プロキシ]** をクリックします。
4. プロキシ サーバーの設定を入力します。設定の詳細については、状況依存ヘルプを参照してください。

## 5 クラウド バックアップのサブスクリプションのアクティブ化

コンピュータでサブスクリプションをアクティブ化すると、コンピュータをクラウド ストレージにバックアップできます。

**ボリューム** サブスクリプションは、Acronis Cloud Storage へのコンピュータのバックアップを開始するとすぐに自動的にアクティブ化されます。

**コンピュータ** サブスクリプション (サーバーまたは PC) も、アカウントで使用可能なすべてのサブスクリプションのタイプが同じで、ストレージのクォータが同じ場合、自動的にアクティブ化されます。さまざまなサブスクリプションがアカウントにある場合は、バックアップ計画の作成時または手動アクティブ化 (このセクションで説明) の実行時に、アクティブ化するサブスクリプションを選択します。コンピュータ サブスクリプションのサブスクリプション期間は、アクティブ化した時点から開始します。



---

**重要** アカウントの最初のサブスクリプションを有効化する前に、プロフィールで選択した国を確認してください。この国に応じて、サービスでバックアップが送信されるデータセンターが決まります。クラウド ストレージにバックアップするすべてまたはほとんどのコンピュータが存在する国を選択してください。そうしないと、データの送信距離が必要以上に長くなることがあります。後で、プロフィールで国を変更した場合でも、データセンターは変更できません。プロフィールにアクセスするには、Acronis の Web サイトにアクセスして、アカウントにログインし、**[個人プロフィール]** をクリックします。

---

## 5.1 Acronis Backup でのサブスクリプションの有効化

サブスクリプションをアクティブ化する手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup を起動します。
2. **[アクション]** メニューで **[Cloud Backup サブスクリプションのアクティブ化]** をクリックします。
3. クラウド ストレージにログインするための資格情報を指定します。
4. コンピュータで有効化するサブスクリプションを選択します。
5. **[今すぐアクティブ化する]** をクリックします。

## 5.2 有効化されているサブスクリプションの再割り当て

利用可能なサブスクリプションではなく、既に有効化されているサブスクリプションを使用する必要がある場合があります。たとえば、次のような場合です。

- コンピュータの 1 つをバックアップする必要がなくなり、そのコンピュータのサブスクリプションを別のコンピュータに再利用する場合。
- Acronis Backup をコンピュータに再インストールして、クラウド バックアップを再開する場合。
- コンピュータをベア メタル (または有効化されているサブスクリプションがまだなかったときの状態) に復元し、クラウド バックアップを再開する場合。

サブスクリプションを再割り当てしても、そのサブスクリプションの期間は再開できません。

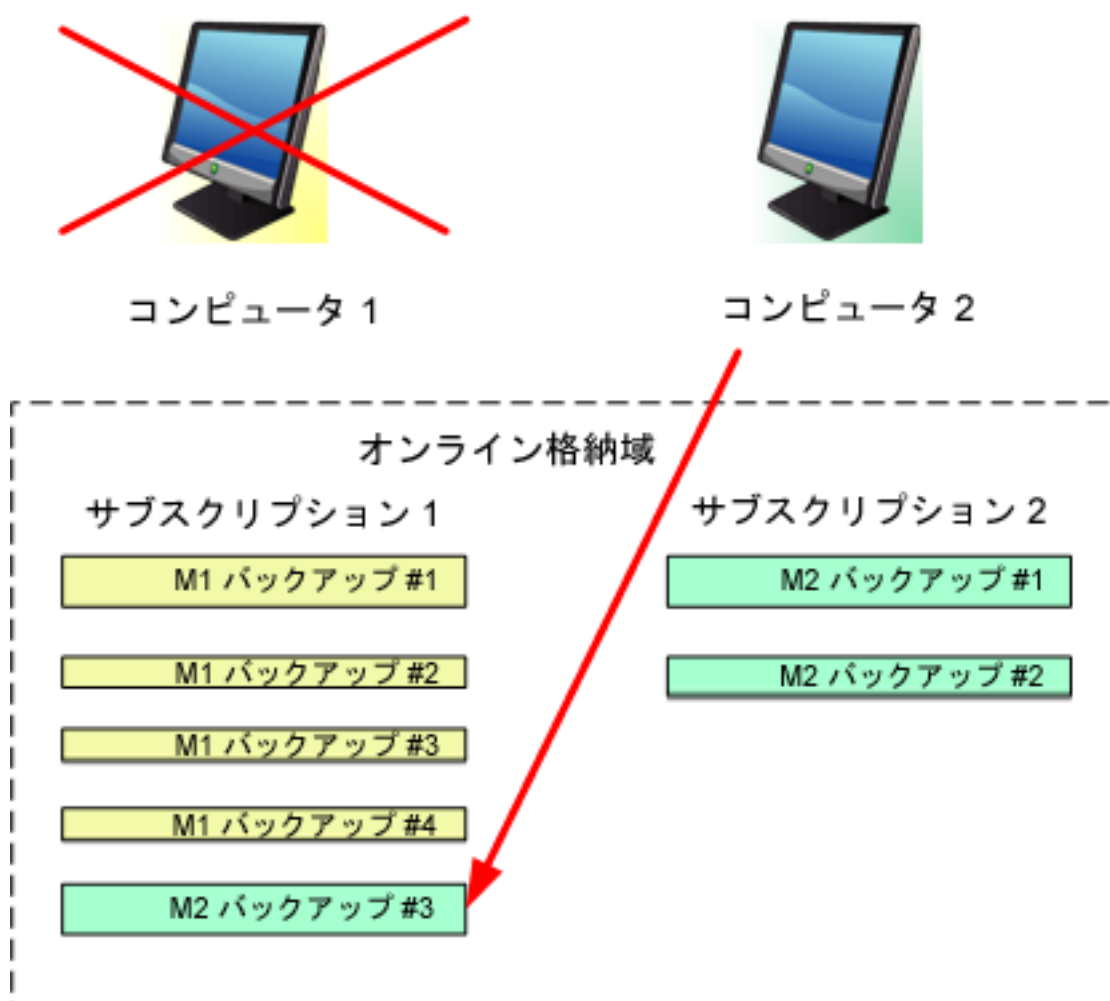
**有効化されているサブスクリプションをコンピュータに割り当てるには**

1. 有効化されているサブスクリプションを割り当てるコンピュータで、サブスクリプションの有効化ウィンドウに移動します。
2. **[すでに使用しているサブスクリプションの再割り当て]** をクリックします。
3. 現在のコンピュータに再割り当てするサブスクリプションがあるコンピュータを選択します。
4. **[今すぐ再割り当て]** をクリックします。

### 例

別のコンピュータにサブスクリプションを再割り当てした場合の例を、次の図に示します。たとえば、「サブスクリプション 1」の「コンピュータ 1」に 4 つのバックアップが存在するとします。「サブスクリプション 2」の「コンピュータ 2」には 2 つのバックアップがあり、「サブスクリプション 1」を「コンピュータ 2」に再割り当てしたいとき、「コンピュータ 2」は 3 つめのバックアップを「サブスクリプション 1」に対して実行しました。

このバックアップが完全バックアップと増分バックアップのどちらになるのかは、設定によって異なります。しかし、このサイズが完全バックアップのサイズよりも小さくなることはありません。そのため、最初のバックアップが初期シードとして行われたコンピュータにサブスクリプションを再割り当てするのは実用的ではありません。初期シードをやり直す（新しいライセンスが必要です）か、非常に大きなバックアップをインターネット経由で転送する必要があります。



以前作成されたバックアップは、すべてそのまま残されます。これらは、必要に応じて手動で削除できます。ただし、バックアップをサブスクリプションから削除できるのは、サブスクリプションが割り当てられているコンピュータに限られます。この例では、次のオプションを選択できます。

#### 再割り当て前

「コンピュータ 1」を使用してバックアップを「サブスクリプション 1」から削除します（コンピュータが使用可能で稼働している場合）。「コンピュータ 2」を使用してバックアップを「サブスクリプション 2」から削除します。

#### 再割り当て後

「コンピュータ 2」を使用してバックアップを「サブスクリプション 1」から削除します。このサブスクリプションをその他のコンピュータに割り当てていない限り、「サブスクリプション 2」からバックアップを削除することはできません。

## 6 クラウド ストレージへのバックアップ

このセクションには、コンピュータからクラウド ストレージにデータをバックアップするための詳細な手順が記載されています。

これらの手順では、次の一般的なシナリオに焦点を当てます。

- 重要なファイルの日単位のバックアップ、および 1 カ月より古いバックアップの削除。「個々のコンピュータのバックアップ」を参照してください。
- 最初（大容量）のバックアップがハード ドライブに送信され、6 カ月より古いバックアップは削除される、オペレーティング システムとインストールされているプログラムの月単位のバックアップ。「初期シードを使用したバックアップ」を参照してください。

地域によっては初期シード サービスが使用できないことがあります。詳細については、こちらをクリックしてください。 <http://kb.acronis.com/content/15118>

『<http://kb.acronis.com/content/15118>』。

これらの手順でバックアップするスケジュールまたは項目を変更することで、ニーズに最も適したバックアップ戦略を設定できます。バックアップの詳細については、Acronis Backup のビルトイン ヘルプを参照してください。

### 6.1 個々のコンピュータのバックアップ

この手順では、コンピュータからクラウド ストレージへのファイルの日単位のバックアップを設定します。同様の手順を使用して、コンピュータのボリュームやコンピュータ全体をバックアップできます。

Acronis Backup では、バックアップ計画と呼ばれるルールセットに従って個々のコンピュータがバックアップされます。

バックアップ計画を作成する前に、コンピュータのサブスクリプションを必ず有効化してください。

**クラウド ストレージにファイルをバックアップする手順は、次のとおりです。**

1. Acronis Backup を起動します。
2. [バックアップ計画の作成] をクリックします。
3. [バックアップの対象] の下で、[バックアップする項目] をクリックします。
4. [バックアップするデータ] で [ファイル] を選択し、バックアップするファイルおよびフォルダを選択します。[OK] をクリックしてウィンドウを閉じます。
5. [バックアップ先] で [ロケーション] をクリックして、クラウド ストレージを選択します。まだ認証を受けていない場合は、[ログイン] をクリックして、クラウド ストレージの資格情報を指定します。
6. デフォルトのアーカイブ名を変更することもできます。[OK] をクリックしてウィンドウを閉じます。
7. [バックアップ方法] の [バックアップ スキーム] で、[シンプル] を選択します。  
詳細: このスキームでは、最初に完全バックアップを実行し、次に増分バックアップを実行します。各バックアップは、デフォルトのスケジュールで実行されます。
8. [保持ルール] で [次より古いバックアップは削除する:] を選択して、値を 1 カ月と指定します。

9. **[OK]** をクリックして、バックアップ計画を保存します。

詳細:[バックアップの計画およびタスク] ビューには、直前に作成したバックアップ計画が表示されます。

## 7 クラウド ストレージに保存されたバックアップへのアクセス

コンピュータで最初のバックアップ計画を作成した後で、プログラムによって、クラウドストレージ内のすべてのバックアップへのショートカットが作成されます。このショートカットは、**個人用格納域**の一覧に表示されます。

コンピュータからバックアップにアクセスする手順は、次のとおりです。

1. **[ナビゲーション]** ツリーで **[格納域]** を展開し、**[個人用]** をクリックします。
2. 名前がクラウド ストレージにログインするために使用する電子メールアドレス (**user@example.com** など) である格納域をクリックします

## 8 クラウド ストレージに保存されているバックアップの操作

クラウド ストレージに保存されたバックアップの次の操作を実行できます。

- コンピュータのバックアップの内容を表示する
- 任意のコンピュータの任意のバックアップのデータを復元する 『19ページ』
- 現在のコンピュータのバックアップを削除する

これらの操作の詳細については、Acronis Backup のビルトイン ヘルプの「バックアップの操作」セクションを参照してください。

## 9 クラウド ストレージからのバックアップ

このセクションでは、クラウド ストレージからデータを復元するための詳細な手順について説明します。

### 9.1 ファイルの復元

クラウド ストレージに保存されているバックアップから指定したフォルダにファイルを復元する手順は、次のとおりです。

クラウド ストレージからファイルを復元する手順は、次のとおりです。

1. Acronis Backup を起動します。
2. **[復元]** をクリックします。
3. **[データの選択]** をクリックしてから、**[参照]** をクリックします。

4. ロケーションの一覧で、**[個人用]** を展開します。名前がクラウド ストレージにログインするために使用する電子メールアドレス (**user@example.com** など) である格納域をクリックします。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。
5. データを復元するバックアップを選択します。
6. 選択したバックアップがディスク レベルのバックアップである場合、**[バックアップ内容]** で **[ファイル]** を選択します。バックアップがファイル レベルのバックアップである場合、この手順をスキップします。
7. 復元するファイルを選択します。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。  
**詳細:** ここでは、アーカイブ内に複数のバックアップが存在する場合にファイルを戻す日付時刻を指定できます。
8. **[復元先]**、**[新しい場所]** の順にクリックして、ファイルの復元先のフォルダを指定します。または、このフォルダをフォルダ ツリーから選択することもできます。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。  
**ヒント:** デフォルトでは、ファイルはバックアップ元のロケーションに復元されます。オペレーティング システムによってロックされているファイルがあると、再起動が必要になることがあります。
9. **[OK]** をクリックして直ちに復元を開始します。  
**詳細:** ウィンドウに復元タスクの詳細が表示されます。

## 9.2 ボリュームの復元

次の手順では、クラウド ストレージに保存されているディスク バックアップからコンピュータのシステム ボリュームとブート ボリュームを復元する方法を示します。

**クラウド ストレージからシステム ボリュームとブート ボリュームを復元する手順は、次のとおりです。**

1. Acronis Backup を起動します。
2. **[復元]** をクリックします。
3. **[データの選択]** をクリックしてから、**[参照]** をクリックします。
4. ロケーションの一覧で、**[個人用]** を展開します。名前がクラウド ストレージにログインするために使用する電子メールアドレス (**user@example.com** など) である格納域をクリックします。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。
5. データを復元するバックアップを選択します。
6. **[バックアップ内容]** で **[ボリューム]** を選択します。
7. システム ボリュームとブート ボリュームを選択します。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。  
**詳細:** システム ボリュームとブート ボリュームをラベルで識別できることが前提となります。Windows 7 および Windows Server 2008 R2 より前の Windows オペレーティング システムの場合、システム ボリュームとブート ボリュームは通常同じです。
8. **[復元先]** で、マスター ブート レコード (MBR) の復元先のディスクを選択します。
9. 復元のために選択した各ボリュームを、宛先ディスク上のボリュームまたは未割り当て領域にマップします。
10. Universal Restore 機能を使用してシステムを異なるハードウェアに復元する場合、そのハードウェアのマザーボード、大容量記憶装置、およびネットワーク アダプタのドライバへのパスを指定します。

ヒント: ターゲット ハードウェアに RAID (特に NVIDIA RAID) 、ファイバ チャネル アダプタなどの特定の大容量記憶装置コントローラがある場合、これら用の大容量記憶装置のドライバを明示的に指定します。これを行うには、**[インストールする大容量記憶装置ドライバ]** をクリックしてからドライバを指定します。

11. **[OK]** をクリックして直ちに復元を開始します。

詳細: ウィンドウに復元タスクの詳細が表示されます。

## 9.3 大規模復元を使用した復元

次の手順では、ディスク バックアップからコンピュータのシステム ボリュームとブート ボリュームを復元します。大規模復元サービスを使用して、インターネット経由ではなくハード ディスク上のクラウド ストレージからバックアップを取得します。

この方法でバックアップを取得するコンピュータごとに、大規模復元ライセンスと呼ばれる個別のライセンスが必要になります。

---

**注意:** システム ボリュームを復元するには、コンピュータを再起動する必要があります。

---

大規模復元を使用してデータを復元する手順は、次のとおりです。

### バックアップの取得

アカウント管理ウェブ ページで、以下の手順を実行します。

1. まだ大規模復元ライセンスを持っていない場合は、購入します。
2. 次のように指定して、大規模復元を注文します。
  - バックアップを取得するコンピュータ。
  - ハードドライブの送信先のアドレス。

注文後に、ハード ドライブが到着するまで待機します。ハード ドライブはユーザーのものになります。

### 復元前の他の注意点

- コンピュータでデータを復元できる回数に制限はありません。
- アーカイブが暗号化されているか、パスワードで保護されている場合は、バックアップ時に自分自身または同僚が設定したパスワードを入力する必要があります。Acronis には、アーカイブのパスワードは通知されません。

### データの復元

---

**注意:** 次の手順では、システムが起動可能であること、およびエージェントがコンピュータで使用可能であることを想定しています。システムが破損している場合は、ブータブル メディアを使用する必要があります。システムを復元するには、このメディアを使用してコンピュータを起動して、同様の手順を実行してください。

---

1. 受け取ったハード ドライブを、復元するコンピュータに接続します。または、このコンピュータからアクセス可能なネットワーク共有にこのハード ドライブの内容をコピーできます。
2. Acronis Backup を起動します。
3. **[復元]** をクリックします。
4. **[データの選択]** をクリックしてから、**[参照]** をクリックします。接続されているディスクまたはネットワーク共有を参照します。**[OK]** をクリックして、選択を確定します。



5. 手順 5 から始まる「ボリュームの復元 『20ページ』」の説明に従って続行します。  
復元の詳細については、状況依存ヘルプを参照してください。

## 10 Web ブラウザを使用したクラウド ストレージからのファイルの取得

Web ブラウザを使用して、Acronis Cloud Storage の参照、ファイル レベル アーカイブの内容の表示、および選択したファイルとフォルダのダウンロードを行うことができます。

次のブラウザでこれらの操作がサポートされます。

- Internet Explorer 7 以降
- Mozilla Firefox 3.5 以降
- Google Chrome 10 以降
- Safari 5.0.5 以降


クラウド ストレージからファイルを取得する手順は、次のとおりです。

1. アカウント管理 Web ページ 『8ページ』にアクセスして、**[Acronis Cloud からのファイルの復元]** をクリックします。指定されたアカウントを使用してバックアップしたコンピュータの一覧が表示されます。ボリューム サブスクリプションを選択すると、このサブスクリプションを共有するコンピュータの一覧が表示されます。
2. 取得するデータがあるコンピュータの名前をクリックします。このコンピュータのデータのファイル レベル アーカイブとディスク レベル アーカイブの両方が表示されます。

**初期シード サービスを使用するユーザー向けの注意:**初期シード バックアップをハードドライブから Acronis Cloud Storage にアップロードする間、バックアップは表示されますが、データは取得できません。

3. 必要なファイル レベル アーカイブをクリックします。メッセージが表示されたら、アーカイブのパスワードを入力します。このアーカイブにバックアップしたすべてのファイルとフォルダが表示されます。
4. 必要に応じて、必要なフォルダを参照するか、検索を使用して必要なファイルとフォルダの一覧を取得してください。

**詳細:** 検索ストリングには、1 つ以上のワイルドカード文字 \* および ? を含めることができます。

5. 次のいずれかを実行します。
  - 単一のファイルまたはフォルダの最新バージョンを取得するには、単に名前をクリックします。
  - 複数のファイルとフォルダの最新バージョンを取得するには、そのバージョンの左側にあるチェック ボックスをオンにして、**[ダウンロード]** ボタンをクリックします。
  - 単一のファイルの以前のバージョンを取得するには、そのバージョンの右側にある  アイコンをクリックして、**[バージョンの表示]** を選択します。これで、バージョン一覧が示されたウィンドウが開きます。このウィンドウで、必要なバージョンをその日付と時刻で選択して、**[ダウンロード]** をクリックします。



- （検索を使用した場合は使用不可）複数のファイルとフォルダの以前のバージョンを取得するには、**[バージョン]** 一覧から必要な日付と時刻を選択します。ファイルとフォルダの左側にあるチェック ボックスをオンにして、**[ダウンロード]** ボタンをクリックします。

**詳細:** 以前にバックアップされ、選択した時点で最も近いファイルとフォルダのバージョンを取得します。

6. 選択したファイルをダウンロードするには、**[保存]** をクリックします。

**詳細:** 単一のファイルを選択した場合、そのままダウンロードされます。それ以外の場合、選択したデータは .zip ファイルにアーカイブされます（デフォルトでは AcronisArchive.zip という名前が付けられます）。

7. データの保存先の場所を選択してから、**[保存]** をクリックします。

## 11 クラウド ストレージの制限

Acronis Backup で使用可能な他のタイプのストレージとは異なり、クラウド ストレージには次の制限があります。

### 操作

次の操作を行うことはできません。

#### バックアップ操作:

- ブータブル メディアからのバックアップ
- エージェント for Exchange を使用したバックアップ
- 差分バックアップの作成
- **[カスタム]** バックアップ スキームの使用
- バックアップ ファイル名指定の簡略化
- 複数の仮想コンピュータの同時ホスト ベース バックアップ
- 仮想コンピュータにバックアップを定期的に変換する設定

#### バックアップの操作:

- バックアップのベリファイ\*
- バックアップのエクスポート
- バックアップのマウント
- クラウド ストレージからのバックアップのレプリケートまたは移動
- 増分バックアップから完全バックアップへの変換

#### アーカイブの操作（アーカイブはバックアップのセットです）

- アーカイブのベリファイ
- アーカイブのエクスポート

これらの制限事項は、初期シードを使用したデータのバックアップ、および大規模復元を使用したデータの復元にも適用されます。

\* 初期シード バックアップは、作成直後に自動的にベリファイされます。

## バックアップおよび復元オプション

バックアップおよび復元オプションの中には、クラウド バックアップによってサポートされていないものもあります。たとえば、**バックアップの分割**です。

[バックアップの作成速度] → [ネットワークの接続速度] オプションを使用して、転送速度をKB/秒単位でさまざまに変化させられますが、パーセント値では変化させられません。

## 12 テクニカル サポート

### 保守サポート プログラム

Acronis 製品に関するサポートが必要な場合には、<http://www.acronis.co.jp/support/> にアクセスしてください。

### 製品アップデート

マイ アカウント (<https://www.acronis.co.jp/my>) にログインし、製品を登録していただきますと、お客様がお使いのすべての Acronis ソフトウェアの最新アップデートを弊社ウェブサイトよりダウンロードすることができます。**Acronis 製品をウェブサイトで登録するには(英語)** (<http://kb.acronis.com/content/4834>)および**アクロニス ウェブ サイトのユーザーガイド(日本語)** (<http://kb.acronis.com/content/8128>)をご参照ください。

## 著作権情報

Copyright © Acronis International GmbH, 2002-2015. All rights reserved.

「Acronis」および「Acronis セキュア ゾーン」は、Acronis International GmbH の登録商標です。

「Acronis Compute with Confidence」、「Acronis Startup Recovery Manager」、「Acronis Active Restore」、「Acronis Instant Restore」、および Acronis ロゴは、Acronis International GmbH の商標です。

Linux は、Linus Torvalds の登録商標です。

VMware および VMware Ready は、VMware, Inc. の米国ならびにその他の地域における商標または登録商標です。

Windows および MS-DOS は、Microsoft Corporation の登録商標です。

ここに記載されているその他すべての商標および著作権は、それぞれの権利所有者に帰属します。

著作権所有者の明示的な許可なく本ドキュメントの実質的な修正版を配布することは禁止されています。

著作権所有者からの事前の許可がない限り、いかなる形態（紙媒体など）であっても商業目的で本ドキュメントまたはその派生物を配布することは禁止されています。

ドキュメントは、「現状のまま」で提供され、商品性に対する黙示的保証、特定の目的に対する適合性、権利を侵害していないことなどを含む明示的または黙示的な条件、言明、および保証に関する責任を負いません（免責条項の範囲が法的に無効と見なす場合を除く）。

本ソフトウェアまたはサービスにサードパーティのコードが付属している場合があります。サードパーティのライセンス条項の詳細については、ルート インストール ディレクトリにある `license.txt` ファイルをご参照ください。本ソフトウェアまたはサービスと共に使用するサードパーティ コードおよび関連するライセンス条項の最新の一覧については、<http://kb.acronis.com/content/7696> をご参照ください。

## Acronis の特許取得済みの技術

この製品で使用されている技術は、以下の番号の米国特許のうち 1 つ以上の保護対象です。  
7,047,380; 7,275,139; 7,281,104; 7,318,135; 7,353,355; 7,366,859; 7,475,282; 7,603,533; 7,636,824;  
7,650,473; 7,721,138; 7,779,221; 7,831,789; 7,886,120; 7,895,403; 7,934,064; 7,937,612; 7,949,635;  
7,953,948; 7,979,690; 8,005,797; 8,051,044; 8,069,320; 8,073,815; 8,074,035; 8,145,607; 8,180,984;  
8,225,133; 8,261,035; 8,296,264; 8,312,259; 8,347,137; 8,484,427; 8,645,748; 8,732,121 および出願中特許。

## 13 用語集

### コンピュータへのサブスクリプションの割り当て

現在のサブスクリプションを更新 『26ページ』 するために、特定のコンピュータのサブスクリプションを予約します。

### サブスクリプション

特定の期間、クラウド ストレージ内の特定量の領域を、1 台または複数台のコンピュータが使用することに対する許可。

### サブスクリプションの割り当て解除

割り当てられたサブスクリプションを再度使用可能にします。

サブスクリプションは、有効化されていない限り割り当て解除できます。

### サブスクリプションの更新

現在の有効化されているサブスクリプションと同じ種類で、同規模以上の大きさのストレージ クォータを持つサブスクリプションを割り当てます 『26ページ』。

このサブスクリプションは、現在のサブスクリプションの有効期限が切れるとすぐに有効化されます。

### サブスクリプションの再割り当て

既に有効化されているサブスクリプションを別のコンピュータに割り当てます。

### サブスクリプションの有効化

サブスクリプションに従ってコンピュータでクラウド ストレージを使用できるようにします。

### サブスクリプション期間

サブスクリプションが有効なままになる期間。この期間中にコンピュータをバックアップして復元できます。この期間の終了後、さらに 30 日間復元が可能です。

### ストレージ クォータを増やす

あるサブスクリプション 『26ページ』 を、より大きなストレージ クォータを持つ別のサブスクリプションを置き換えます。残りのサブスクリプション期間 『26ページ』 は、容量の増加に比例して減少します。

### ストレージのクォータ

サブスクリプション 『26ページ』 に従って占有できる記憶域スペースの量。

## ライセンス

Acronis Cloud Backup のその他のサービス 『27ページ』 をコンピュータで使用するための許可。

初期シード ライセンスおよび大規模復元ライセンス、またはそのいずれかを購入できます。

## 漢字

### 割り当てられたサブスクリプション

コンピュータに割り当てられている 『26ページ』 サブスクリプション。

### 初期シード

最初の完全バックアップをローカルに保存してから、ハード ディスク ドライブの Acronis に送信できるようにするその他のサービス 『27ページ』。Acronis は、バックアップをクラウド ストレージにアップロードします。その後、増分バックアップをこの完全バックアップに手動で追加するかスケジュールに従って追加できます。

地域によっては初期シード サービスが使用できないことがあります。詳細については、こちらをクリックしてください。 <http://kb.acronis.com/content/15118> 『<http://kb.acronis.com/content/15118>』。

### 大規模復元 (LSR)

クラウド ストレージにあるバックアップのコピーを取得できるようにするその他のサービス 『27ページ』。その後、このコピーからデータを復元できます。

地域によっては大規模復元サービスが使用できないことがあります。詳細については、「<http://kb.acronis.com/content/15118> 『<http://kb.acronis.com/content/15118>』」を参照してください。

### 追加のサービス

クラウド バックアップ サブスクリプション 『26ページ』 に加えて使用できるサービス。

### 登録コード

Acronis パートナーから購入したサブスクリプション 『26ページ』 またはライセンス 『26ページ』 を登録するための文字ストリング。

サブスクリプションまたはライセンスを購入すると、それぞれの登録コードが記載された確認の電子メールが送信されます。受信した登録コードは、アカウント管理 Web ページに入力することで、サブスクリプションやライセンスが利用可能になります。

### 有効化されているサブスクリプション

現在コンピュータによって使用されているサブスクリプション。

## 利用可能なサブスクリプション

どのコンピュータにも割り当てられていないサブスクリプション。